

オリンピック・パラリンピックから考える スポーツと法

早川吉尚 編

2021年7月発売／150頁／定価2090円（税込）
四六判／並製



編集
担当者
から

法学教室にて、2020年1月号（472号）～同年9月号（480号）の期間連載していた『オリンピック・パラリンピックから考えるスポーツと法』を、書籍化することになりました。本書では、オリンピック・パラリンピックをテーマに、スポーツの世界において「法」がどのように活かされているのかを研究者・実務家双方の視点から解説しています。書籍化にあたり、紛争解決手続やアンチ・ドーピング・ルールの記述を厚くしたり、2020年東京オリンピック・パラリンピックが延期されたことに伴う法的問題についての項目を追加しました。

普段、テレビや新聞等のメディアで観る「オリンピック・パラリンピック」とは違った視点——選手の公平な競争やスポーツの祭典の開催を支える法的仕組み——を学ぶことができる1冊となっています。この機会に是非、スポーツの世界でも活躍する「法」に触れてみてください。（菅野）

Index



12の項目でオリンピック・パラリンピックと「法」の関わりを広く、深く学べます！

- 1 本書の趣旨と全体像（早川吉尚）
- 2 IOCって何？（濱本正太郎）
- 3 選手選考と紛争解決（小川和茂）
- 4 スポーツ競技団体の裁量権と行政法的思考——選手選考を中心に（興津征雄）
- 5 アンチ・ドーピング・ルールの目的と手続（宍戸一樹）
- 6 アンチ・ドーピング・ルールの実体面——違反類型と制裁措置（宍戸一樹）
- 7 選手選考紛争と手続代理（杉山翔一）
- 8 アンチ・ドーピング紛争と手続代理（高松政裕）
- 9 スポーツ選手とパブリシティ権（上野達弘）
- 10 性と障がいから考えるスポーツと憲法（南野 森）
- 11 国際スポーツ団体を巡る「不正」（早川吉尚）
- 12 オリンピック延期を巡る法的問題（早川吉尚）